

令和4年度 函南町立丹那小学校 グランドデザイン

国：生きる力の育成 県：有徳の人の育成 町：豊かな感性と「生きる力」をもつ子供の育成	校訓： 何くそ やりぬくぞ 学校教育目標：挑戦 はじける笑顔 丹那の子 重点目標： ○試行錯誤を繰り返して課題を解決し、自分の成長に笑顔になる子 ○丹那のすばらしさを実感し、丹那に誇りと愛着をもつ子 学校経営目標 ○丹那を学び、丹那のよさを知り、丹那とともにある学校
--	---

【評価の最重点項目】

- ◎読書に親しむことができた。
- ◎規則正しい生活ができた。
- ◎学級や学校をよくするために進んで発言した。
(三項目の児童A評価：60%以上)
- ◎学校は、保護からの質問や要望に適切に対応している。
(保護者A評価：60%以上)

【学習指導・生活指導】

- ◎主体的・対話的で深い学び
- ◎本物と出会う(出合う)場の設定
- ◎少人数を生かした授業づくり
 <学習に進んで取り組む>(児童A:75%以上)
 <縦割り活動で進んで協力する>(60%以上)
- ◎きまりを守る生活
- ◎自他のよさを認め合う温かい人間関係づくり
 <いじめ・不登校ゼロの継続><挨拶や返事が自分からできている>(児童A:60%以上)

【学校運営】

- ◎「子供の安全・安心」を第一に!
- ◎「子供たちのために」を合い言葉に!
- ◎教育課程編成
 - ・四つのミッション達成を軸にした教育計画
 - ・GIGAスクール推進
 - ・教職員の働き方改革をも意識した教育計画
- ◎SSW(町教育支援センター)との連携
 <PDCAサイクルを意識し、教育活動をその都度見直している>(教員A:70%以上)
 <重大事故ゼロ・不祥事ゼロの継続>
 <働き方改革・業務改善の推進>

【校内研修の推進】

- ◎テーマ「少人数のよさを生かした対話的な学びの追究」
- 一人一台端末を活用した効果的な取組
 <少人数のよさを生かした主体的な学びの視点に立った授業改善>
 (教員A:60%以上)

① 丹那の頂に登る「玄岳遠足」 ② 地域・幼小連携の「オール丹那で地域総がかりの教育を推進するために」
 ③ 丹那の恵みを食す「オール丹那自給自足DAY」 ④ 感謝の心と表現力の向上を示す「ありがとうの会」

教育活動を支える四つのミッション(オール丹那で地域総がかりの教育を推進するために)

【Plan→Do→Check→Action】 (PDCAサイクルの活用)

小規模特認校制度
適用を目指して

< 特色ある教育活動 >

- ◎教科指導の充実
 - ・少人数ならではの手厚い学習指導
 - ・3年生以上で教科担任制
(理科、音楽、体育、外国語等)
 - ・外国語活動で低学年10時間の授業
 - ・一人一台端末の積極的活用
- ◎豊かな自然環境を生かした体験活動
 - ・農協、地域人材を活用した食農体験
 - ・観光施設を活用した酪農体験
 - ・丹那を知る授業(ジオ学習、歴史)
- ◎豊かな交流活動
 - ・自主性、社会性を育成する縦割り活動
 - ・他校との交流
(桑村小学校、小規模特認校等)
 - ・地域人材との交流
(授業、クラブ活動、読み聞かせ等)
- ◎地産地消のおいしい給食
 - ・町内産の牛乳、トマト等
 - ・校内産のサツマイモ、ユズ等

<学習に進んで取り組む>(児童A:60%以上)
 <縦割り活動で協力する>(児童A:75%以上)

< 開かれた学校づくり >

- ◎CSオール丹那会議(学校運営協議会)を軸とした地域に開かれた学校づくり
- ◎Tanna Dream School Projectチームによる新しい学校づくり(小規模特認校適用)
- ◎地域の人材、教材を生かした学校づくり
- ◎学校・学級便り、HP等による情報発信
- ◎地域住民への教育活動参画依頼と募集

<地域の方や魅力的な丹那の素材との交流を生かした学びの創造>(保護者A:60%以上)

【児童の実態】

- ◎穏やかで真面目に努力することができる。
- ◎素直で落ち着いた生活態度である。
- 主体的に取り組むこと、試行錯誤を繰り返して粘り強く行うことに課題が感じられる。